雀の夢日記

試し読み11P
＋使用イラストのサンプルです。

雀の夢日記

試し読み11P
＋使用イラストのサンプルです。

SAMPLE

ある人里に、雀という女の子がいました。
里では人々と、平和に暮らしていました。

しかし、雀は、一人ででかかえこんでしまう子でした。
里でも気丈にふるまい、誰にも心配はかけたくない。
頼られるなら、できる限り力を貸したい。
でも、自分の事は、誰にも頼らず、一人で。
そう思ってしまう子でした。

一人になった時の、さみしそうな顔は、誰も知らないでしょう。
人がこわいのです。信じたいけれど、そうなれない。
里の人たちのことは好きなのに、
心から信じることはできませんでした。

SAMPLE

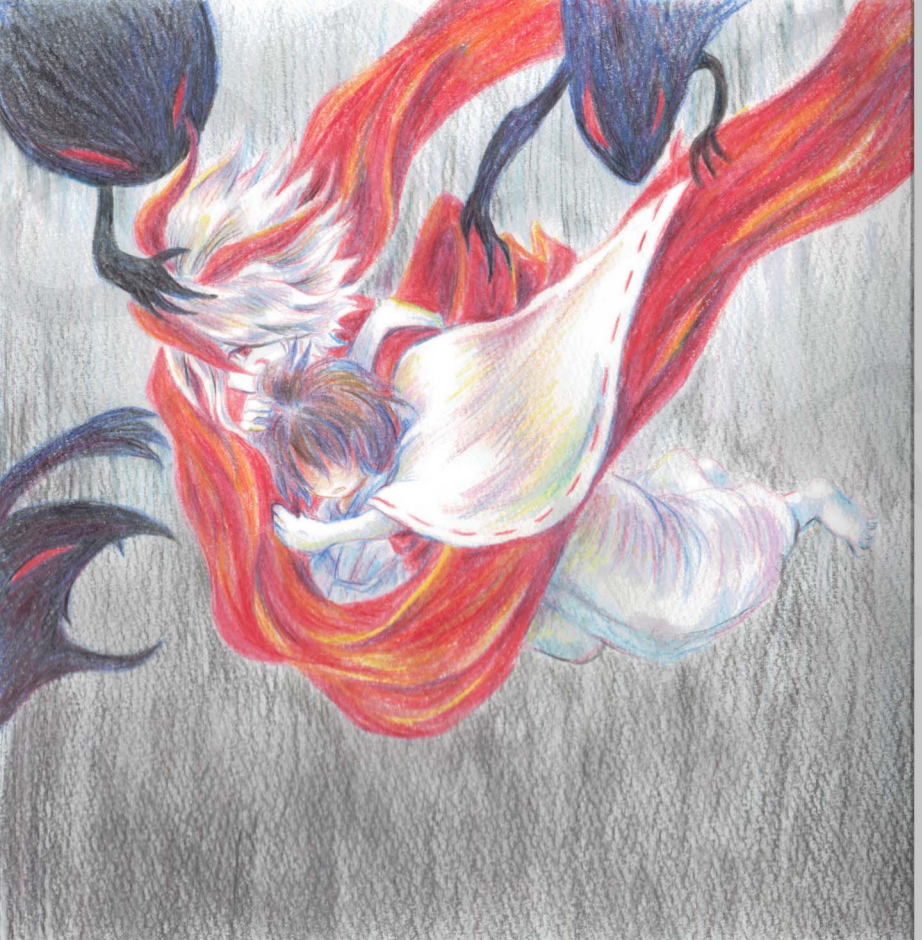
ある日、自分の食べ物の残りが
減っていることに気が付きました。
人にもらうわけにはいかない、
きっと困るだろうと思い、人には頼めなかった
けっきょく、いつも通り、
一人で探しに行くことにしました。

食べられる草や、きのみを
必要な分だけあつめ、ひとだんらく。
少し疲れたので、木陰で休んでから、
帰る事にしました。

・・・見覚えのある女の子。何かの影に囲まれている。
女の子の目の前には、どこまでも深そうな、大きな奈落の穴。
雀は、女の子と気持ちが重なっているような気持ちだった。

とても重く、悲しく、絶望し、力が出ない。
女の子は、闇の穴の中に、倒れるように飛び込む寸前。
このまま、落ちるんだ・・・と思った。

SAMPLE
SAMPLE

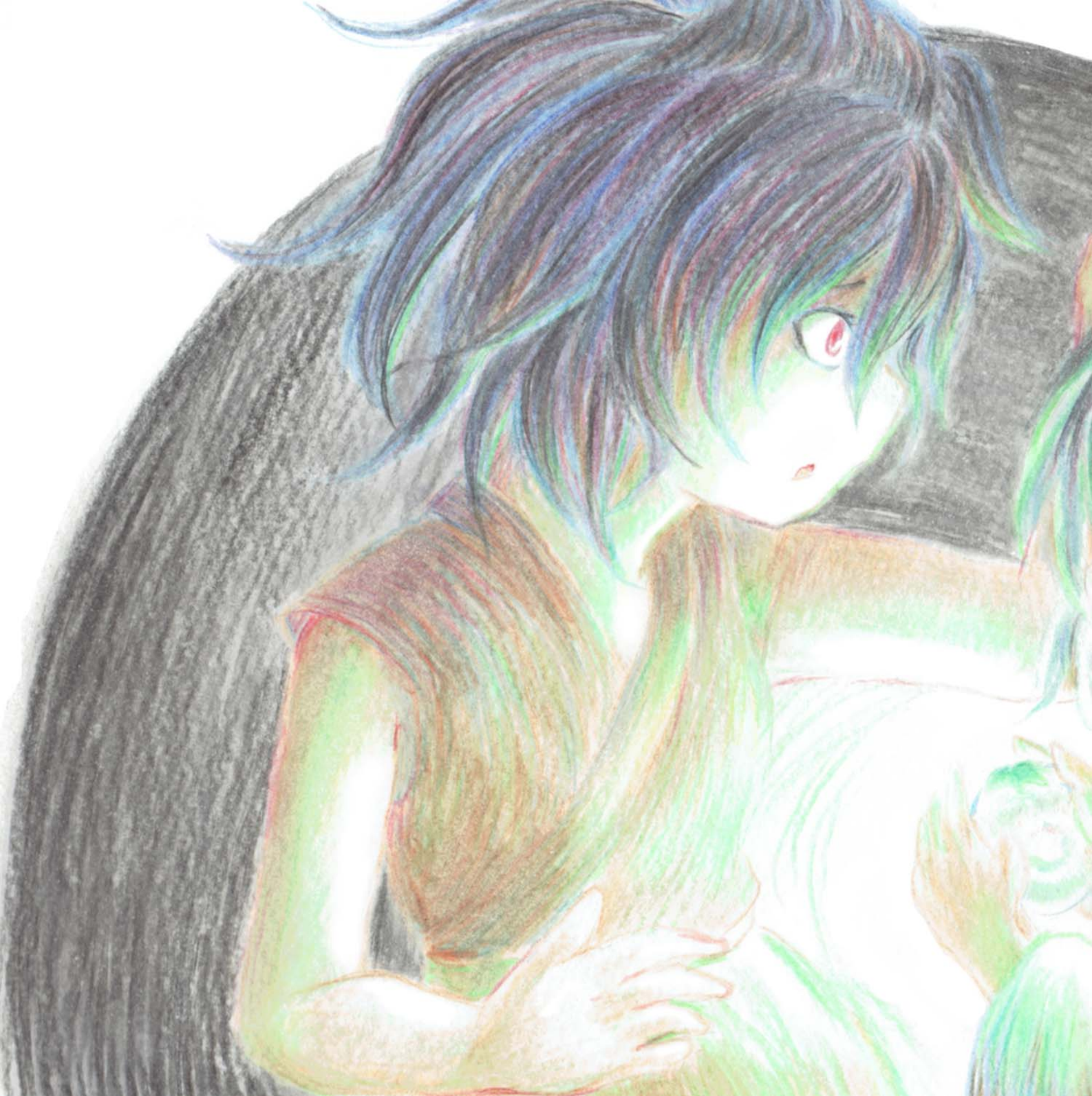


そのとき、何か白いものが、うしろから飛んできた。
それは、落ちた女の子をしっかり抱いて、一緒に落ちていった。

周りにいた影のようなものたちは、
落ちていった二人を引き離そうとしていたが、
その白い人物は、まっすぐな瞳で、なんともない顔で、
女の子を守り、落ちていった。

SAMPLE

・・・いつのまにか、居眠りを
してしまっていました。
「へんな夢・・・。」
目が覚めて、すぐとなりの
ふわふわとした感触に気付きました。
・・・白いうさぎだ！
雀のとなりに、白いうさぎが、
まるまって座り込んでいました。

とつぜん白いうさぎは、
驚く雀に対して、おなかの
下にあったと思われる、
白いさやに納まった小刀を
見せました。
拾うわけにはいかないし…
そう思って立ち上がろうと
すると、うさぎは雀のひざに
足を乗せて、雀の顔を
じっと、見つめていました。

SAMPLE